

市内遺跡 2014

平成26年度小諸市内遺跡発掘調査報告書

平成28年3月

小諸市教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県小諸市における各種開発事業に伴う平成26年度の市内遺跡発掘調査及び国史跡寺ノ浦石器時代住居跡の保存目的にかかる調査の報告書である。
- 2 調査は国宝重要文化財等保存整備費補助金を受けて小諸市教育委員会事務局生涯学習課が実施した。
- 3 調査は、生涯学習課の高橋陽一が担当した。
- 4 調査にかかる事務局の体制は、次のとおりである。
教育長 柳沢恵二
教育次長 土屋政紀
生涯学習課長 内堀浩宣
生涯学習係長 花岡 弘
生涯学習係 高橋陽一 山東丈洋 跡部裕之
- 5 調査に関する資料は、小諸市立郷土博物館に保管している。
- 6 調査にあたり、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課、長野県埋蔵文化財センター、佐久考古学会の諸氏からご指導、ご助言を頂いた。また、施工主や地域の方々には日程調整や発掘調査の承諾等でご協力を頂いた。記して深く感謝する次第である。

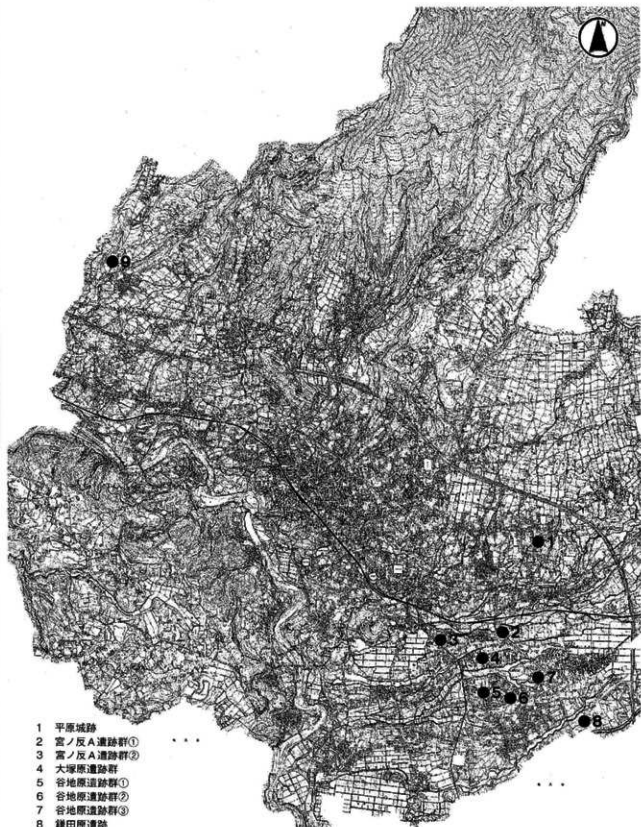
目 次

例 言

調査遺跡位置図

平原城跡	1
宮ノ反A遺跡群①	3
宮ノ反A遺跡群②	5
大塚原遺跡群	7
谷地原遺跡群①	9
谷地原遺跡群②	11
谷地原遺跡群③	13
鎌田原遺跡	15
寺ノ浦遺跡群	17
抄 録	

調査遺跡位置図



- 1 平原城跡
- 2 宮ノ反A遺跡群①
- 3 宮ノ反A遺跡群②
- 4 大塚原遺跡群
- 5 谷地原遺跡群①
- 6 谷地原遺跡群②
- 7 谷地原遺跡群③
- 8 鎌田原遺跡
- 9 寺ノ浦遺跡群

平原城跡

所在地 小諸市大字八満
字宮浦620先
事業概要 道路改良
調査期間 平成26年8月29日
調査方法 試掘調査
調査面積 27.32㎡
検出遺構 なし
出土遺物 なし



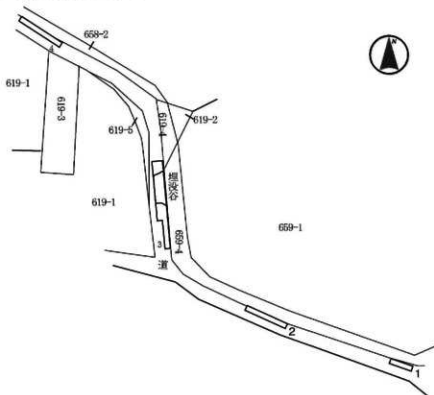
調査地点位置図

調査の概要 調査区内の4カ所にトレンチを設定し、重機を用いて掘り下げた。

現況は道路であり、アスファルト下の路盤の厚さはトレンチ1で46cm、トレンチ2で45cm、トレンチ3、4で36cmを測る。いずれのトレンチでも路盤を取り除いたところで浅間軽石流堆積層（明褐色7.5YR5/6 3～5cm大の軽石を含む。）に到達したため、本層検出面で遺構の検出作業を行った。

遺構は確認できなかったが、トレンチ1、2、3で埋設管、トレンチ4で攪乱痕が認められた。また、トレンチ3で黒褐色土（7.5YR3/1 2cm大の軽石をわずかに含む。）が堆積した埋没谷が認められた。

遺物は一切、出土していない。



トレンチ設定図 1:500



調査区中央



トレンチ1 (西側から)



トレンチ2 (西側から)



トレンチ3 (南側から)



トレンチ4 (西側から)

宮ノ反A遺跡群①

所在地 小諸市大字御影新田字竹ノ花1442-1、1442-3の一部

事業概要 集合住宅建設

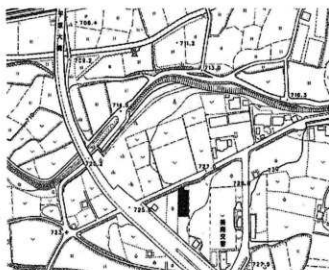
調査期間 平成26年7月28日

調査方法 試掘調査

調査面積 29.72㎡

検出遺構 ビット2基

出土遺物 土師器杯、鉢、甕、小型甕
須恵器杯、甕

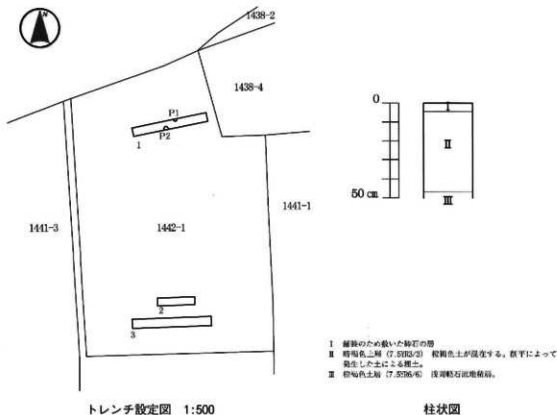


調査地点位置図

調査の概要 開発予定地区は過去に大規模な削平を受けており、遺跡の存在はほぼ絶望的と思われたが、深く掘り込まれた土坑などが残存している可能性もあるので、トレンチを3か所に設定し、重機を用いて掘り下げた。

いずれのトレンチも現況地表面から40～50cm下までは削平後の発生土による埋土の層とみられ、遺構は検出できなかったが、トレンチ1では埋土を取り除いたところ、ビット（以下、Pとする。）2基が検出された。確認面は現況地表面より43cm下である。

遺物はP2の検出面で土師器の甕が出土したほか、トレンチ1及びトレンチ3の表土より土師器の杯、鉢、小型甕と須恵器の杯、甕が出土した。いずれも完形ではなく破片資料で、時代は古墳時代後期から平安時代初頭所産のものである。



- I 掘跡のための敷いた砕石の層
- II 褐色色土層 (7.50B3/2) 殺菌色土が混在する。削平によって発生した土による埋土。
- III 砂褐色土層 (7.50B6/6) 浅層粘土質地積層。



調査区全景 (南側より)



トレンチ1 (東側より)



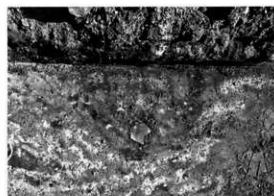
トレンチ2 (東側より)



トレンチ3 (東側より)



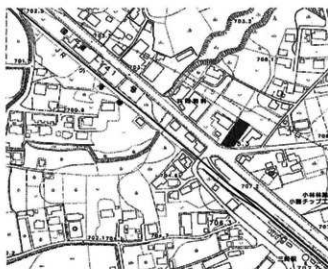
P1 検出状況



P2 検出及び土器出土状況

宮ノ反A遺跡群②

所在地 小諸市大字御影新田
字釜神1568-1
事業概要 貸事務所建設
調査期間 平成27年2月27日
調査方法 試掘調査
調査面積 10.22㎡
検出遺構 なし
出土遺物 あり



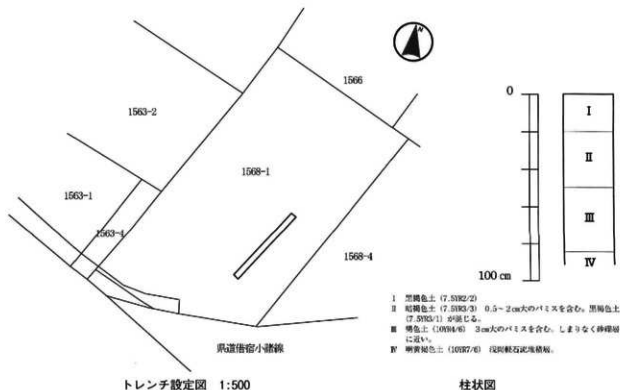
調査地点位置図

調査の概要 開発予定区は狭い畑地であり、南側が谷に接する地形である。西側の隣地境界及び南側の道路境界側は土手になっており、崩落する危険があるためここを避け、敷地南東側の平坦地、建物基礎を伏せる場所にトレンチを1本設定し、重機を用いて掘り下げた。

トレンチ北東側では、65cmほど掘り下げたところで浅間軽石流堆積層の頂部に到達したが、南西端は85cmほど掘り下げても浅間軽石流堆積層は検出できなかった。計画している建物の基礎掘りの深さは現況地表面より70cm下までのため、これ以上の掘削は実行しなかった。

遺物は表土中より、須恵器甕片が2点、縄文土器片、黒色土器片、土師器片が各1点出土した。また、開発予定地区の北東側は攪乱を受けており、コンクリート片と一緒に須恵器壺の底部破片が1点出土した。

遺構検出作業は、浅間軽石流堆積層の検出面で行ったが、確認できなかった。





上：調査区全景（南側より）
下：トレンチ（北東側より）

大塚原遺跡群

所在地 小諸市大字御影新田
字大塚原1946-5

事業概要 消防詰所建設

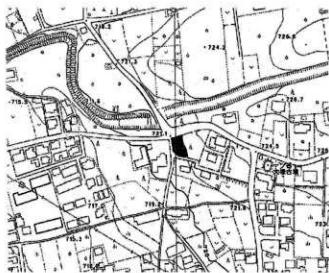
調査期間 平成26年11月6日

調査方法 試掘調査

調査面積 5.92㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

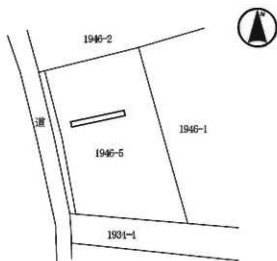


調査地点位置図

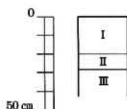
調査の概要 当該調査区は唐松林であったため抜根後、建物を計画している場所にトレンチを1本設定して重機を用いて掘り下げた。

現況地表面より28cm下で浅間軽石流堆積層に到達し、本層検出面で遺構の検出作業を行ったが、確認できなかった。遺物についても同様である。

山林であった場所であるため、木の根による攪乱が多く見られた。



トレンチ設定図 1:500



- I 砂礫色土 (7.5963/4)
- II 別働色土 (7.5975/8) 5mmの軽石をわずかに含む。
- III 黄褐色土 (1.0575/8) 浅間軽石流堆積層。2～3m大の軽石を含む。

柱状図



上：調査区全景（南側より）
下：トレンチ（西側より）

谷地原遺跡群①

所在地 小諸市大字御影新田

字谷地原2510-5

事業概要 駐車場整備

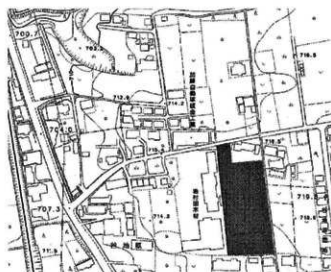
調査期間 平成26年10月2日

調査方法 試掘調査

調査面積 100.8㎡

検出遺構 なし

出土遺物 土師器甕の破片1点



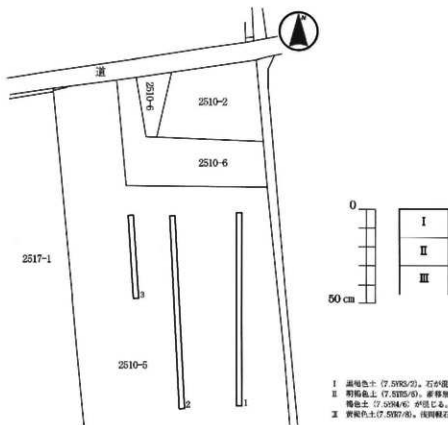
調査地点位置図

調査の概要 当該調査区は南西に向かって傾斜する地形で、谷の始まりにあたる。特に南側は扶られたように落ち込んでいる。もとはリング畑だった場所である。

トレンチは比較的平坦な場所を選んで3本設定し、重機を用いて掘り下げた。

いずれのトレンチも現況地表面より30cm程度下で浅間軽石流堆積層に到達したので、本層検出面で遺構の検出作業を行ったが、確認できなかった。

遺物については、トレンチ2の覆土中より6世紀後半頃の土師器の甕片が1点出土したが、遺構に伴うものではなく、流されてきたものかと思われる。



トレンチ設定図 1:1,000

柱状図

- I 黒褐色土 (7.5393/0)。石が混じらないややサラした表土。
- II 暗褐色土 (7.5115/0)。産物部。2～3mm大の軽石を含む。黒褐色土 (7.5294/6) が混じる。
- III 黄褐色土 (7.5307/0)。浅間軽石流堆積層。1cm大の軽石を含む。



調査区全景（南側より）



トレンチ1 北半分



トレンチ1 南半分



トレンチ2（南側より）



トレンチ3（南側より）

谷地原遺跡群②

所在地 小諸市大字御影新出
字谷地原2450-8

事業概要 個人住宅建設に伴う宅地造成

調査期間 平成27年2月2日

調査方法 試掘調査

調査面積 19.35㎡

検出遺構 なし

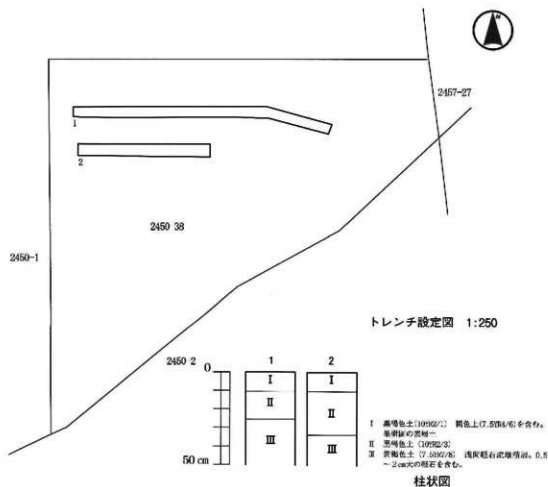
出土遺物 なし



調査地点位置図

調査の概要 調査区は果樹園として利用されていた場所である。敷地南側の3分の2程度は急傾斜地で平坦面はほとんどない。傾斜地を避けて東西方向にトレンチを2本設定し、重機を用いて掘り下げた。

トレンチ1では現況地表面より25cm下で、トレンチ2では34cm下で、浅間軽石流堆積層に到達したため、本層検出面で遺構の検出作業を行ったが、確認できなかった。遺物についても同様である。





調査区全景（北東より）



トレンチ1（東側より）



トレンチ2（東側より）

谷地原遺跡群③

所在地 小諸市大字御影新田
字池ノ上2344 2395-1
2395-2

事業概要 集会所建設

調査期間 平成27年3月6日

調査方法 試掘調査

調査面積 23㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし



調査地点位置図

調査の概要 開発が計画された地籍は最近まで水田として利用されていた場所である。谷の始まりにあたり、付近より1段下がった位置にある。

2395-2地籍はかつて池であった場所であり、また、2395-1地籍は谷の底に位置しているため、2344地籍にトレンチを1本設定し、重機を用いて掘り下げた。

20cmほどの耕作土の堆積があり、その下に水田の床土が観察された。床土の厚さは16~20cm程度である。床土の下は浅間軽石流堆積層であった。

トレンチ東側で床土と同質の土が入り込んだ不整形ピットが観察されたため半載したところ、水がわき出てきた。湧水を抑えるために床土により補修したと思われる。また暗渠排水が観察された。

全体的に非常に水気と鉄分の多い土質である。





上：調査区全景（南西側より）
下：トレンチ（西側より）

鎌田原遺跡

所在地 小諸市大字御影新田
字中原1-1ほか

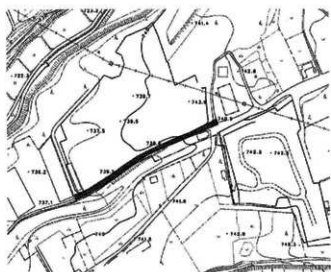
事業概要 道路拡幅

調査期間 平成26年4月2日

調査面積 7㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし



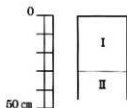
調査地点位置図

調査の概要 1m×2mのトレンチを7本設定し、重機を用いて掘り下げた。いずれのトレンチも現況GLから30cm程度で浅間第1軽石流堆積層に到達したため、本層検出面で遺構の検出作業を行ったが、確認できなかった。遺物も同様である。なおトレンチ6では、碎石を埋めて補修し、整地した跡が認められた。

調査区は未舗装であるが既に道路として利用されている場所であり、軽石流堆積層を削って路盤とし、その上に碎石を敷き詰めている。



トレンチ設定図 1:1000



- I 道路路盤。
II 黄褐色土 (100%G) 浅間軽石流堆積層, 3cm程度の軽石を含む。

柱状図



調査区全景（東側より）



トレンチ1



トレンチ2



トレンチ3



トレンチ4



トレンチ5



トレンチ6



トレンチ7

寺ノ浦遺跡群

所在地 小諸市大字滋野甲3036ほか

事業概要 史跡寺ノ浦石器時代住居跡の整備活用にかかる保存目的調査

調査期間 平成26年11月5日～平成26年12月16日

調査方法 発掘調査

調査面積 120㎡

調査の経緯

本調査は寺ノ浦石器時代住居跡の整備活用を企図して実施したものである。

寺ノ浦石器時代住居跡は昭和5年に初めて調査が実施され、敷石住居址、縄文土器、石器、土偶などの発見が報告されているが、調査面積は狭小のうえこれ以降の調査履歴はなく、集落遺跡としての全容を明らかにするまでには至っていなかった。そこで史跡及びその周辺の発掘調査を実施し、そのデータを基に整備事業につなげたいと考え、事業を開始した。

ただし、基本層序等、指定地内の地下についての情報が乏しかったので、本年度は指定地に近接する地籍に調査区を設定し、当該地区における基本層序等の情報を収集することにした。ちなみに、史跡指定地を含む一帯、約50,400㎡は周知の埋蔵文化財包蔵地で寺ノ浦遺跡群である。

史跡 寺ノ浦石器時代住居跡の概要

小諸市大字滋野甲3041-1ほかに所在する国史跡で、指定面積は7,234㎡である。

浅間・烏帽子火山群に属する三方ヶ峰の南斜面に形成された標高770mの丘陵上に位置する。直線距離にして西へ約500mの場所には同じ国史跡で同時期の東御市戌立石器時代住居跡が存在しており、関係性が注目されている。

昭和5年5月に発掘調査が実施され、縄文時代後期の敷石住居址を発見した。出土した遺物には、縄文土器のほか、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石棒、土偶などがあり、オオカミの牙と鑑定された骨もある。

調査後は現地に上屋が復原され、遺跡の保存活用が図られた。当時としては非常に画期的な試みであったが、残念ながら落雷により燃えてしまい今は見る事ができない。

戌立石器時代住居跡とともに当時としては数少ない敷石住居が調査されたことにより、浅間南麓における縄文文化研究の出発点に位置づけられている。

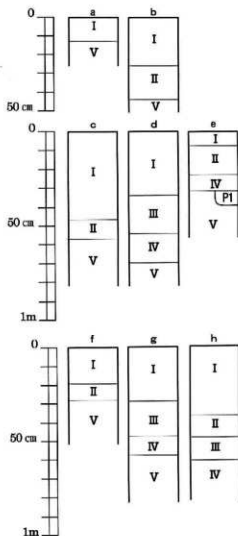
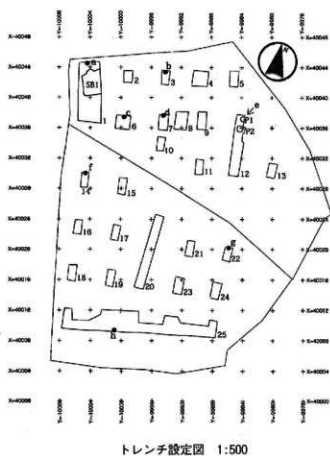
昭和7年に長野県史跡、そして翌昭和8年2月28日、国史跡に指定された。



調査地点位置図

遺構と遺物

対象調査区の面積は1,277㎡である。1m×2mのトレンチを基本として地下の状況に応じて幅を広げていき、最終的に25本のトレンチを掘削した。



- I 黒褐色土 (2.S193/4) 1cm程度の縞をごく少量含む。しまり、粘性强し。
 II 暗褐色土 (10.S193/4) 1-3cm程度の縞を含む。ごく少量であるが、20cm程度の埋も食んでいる。縞の大きさは下に行くほど大きくなる。しまり、粘性ややあり。
 III 黒褐色土 (7.S193/2) 0.5-1mm程度の砂粒やパミスが混ざる。固くしまり、粘性あり。縄文中期から後期にかけての土層が多く出土する。
 IV 黒褐色土 (2.S193/2) 0.5-1mm程度の砂粒やパミスが混ざる。1cm程度のものから20cm程度の埋を含む。しまりあり、粘性ややあり。
 V 黄褐色土 (10.S193/6) 穴は混入。15-30cm程度の埋を含む。地質によっては1mを超える距離がみられる。

検出遺構

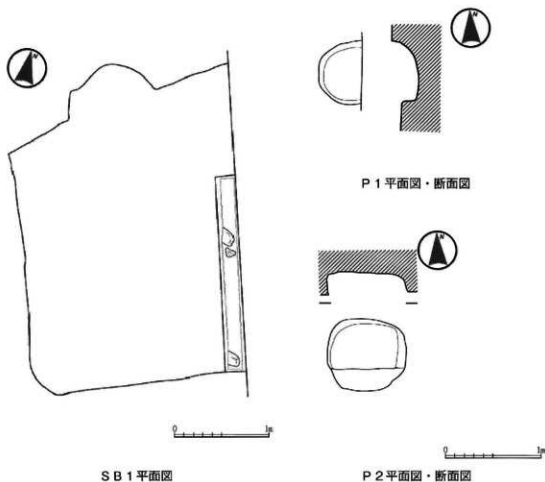
住居址SB1：トレンチ1で検出された。規模は南北3.4m、東西2.8m（推定）で北北西-南南西方向に主軸をとる。東壁に幅20cm、長さ2mのサブトレンチを設定し、部分的に掘削した。覆土直上及び覆土中から土師器片や灰軸陶器が出土したことから、平安時代の住居址と判断した。

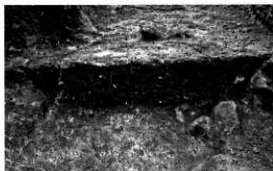
ピットP1：トレンチ12で検出された。全体を検出していないが、長径が64cm、深さ10cmを測る円形のピットであると考えられる。半截により観察を行った。Ⅲ層の下より掘り込まれており、黒曜石のチップが覆土中から出土したことから、縄文時代の遺構と判断した。

ピットP2：トレンチ12で検出された。長径、短径とも80cm、深さ20cmを測る円形のピットである。出土遺物はなかったが、P1と同一レベルから掘り込まれており、縄文時代の遺構と思われる。

出土遺物

遺物は縄文中期中葉から後期初頭にかけての土器、打製石斧、石棒ほか平安時代所産の土師器と灰軸陶器が出土した。出土土器はいずれも破片資料で、ほとんどが小片である。





上：調査区全景
中央左：P1
中央右：P2
下：SB1



縄文土器①



縄文土器②



打製石斧



石棒

報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡2014
副書名	平成26年度小諸市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第34集
編著者名	高橋陽一
編集機関	小諸市教育委員会
所在地	小諸市相生町三丁目3番3号
発行年月日	平成28年3月31日

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第34集

市内遺跡2014

平成26年度小諸市内遺跡発掘調査報告書

平成28年（2016）3月31日 発行

編集・発行 小諸市教育委員会
〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号
TEL：0267-22-1700（代表） FAX：0267-23-8857

印刷 ほおずき書籍株式会社
〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
TEL：026-244-0235（代表） FAX：026-244-0210